

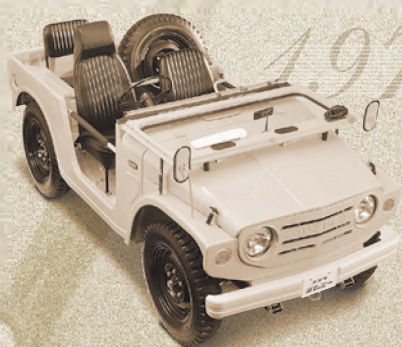
| 広 | 報 | 資 | 料 |

# スズキ軽自動車年表

Suzuki Mini Vehicle Chronology

日本で、世界で、人と社会に貢献する軽自動車

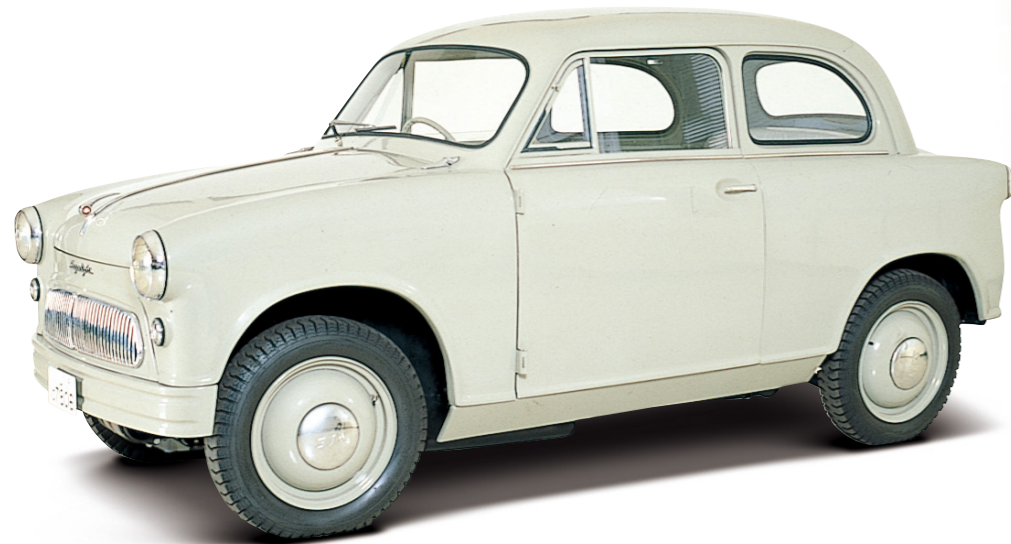
2024年版



1986



SUZUKI



## INDEX

P.02 はじめに

P.03 軽自動車市場の変遷

P.05 スズキ軽自動車の系譜

P.07 スズキ軽自動車 車種別年表

- p.07—スズライト、フロンテ、フロンテクーペ
- p.08—アルト
- p.09—アルト、アルト ラパン
- p.10—ワゴンR
- p.11—パレット、スペースア
- p.12—Kei、ハスラー
- p.13—セルボ、マイティボーイ、カブチーノ、  
キャラ、MRワゴン、ツイン
- p.14—ジムニー
- p.15—キャリイ
- p.16—キャリイバン、エブリイ、エブリイワゴン

P.17 軽自動車の使いやすさと軽トラ市のご紹介

P.18 軽自動車の世界展開

P.19 スズキ軽自動車の累計販売台数

P.20 スズキの予防安全技術

P.21 データ(軽四輪届出比率、保有台数など)

P.23 参考資料  
スズキ国内小型車の系譜

P.25 参考資料  
スズキ国内小型車 車種別年表



## はじめに

軽自動車が生まれたのは、1949年(昭和24年)。小型自動車から分かれて初めて軽自動車という規格が誕生しました。スズキは、1955年に日本初の量産軽自動車「スズライト」を発売しました。その第一号車のお客様はお医者さんでした。雨の日にも風の日にも「早く患者さんのところに往診にいきたい」。そんな願いから軽自動車をお求めいただきました。その後、軽トラックに代表される商用車も発売され、農林水産業の方や個人商店、町工場の方など、「仕事に役立つクルマ」として発展してきました。また、公共交通機関の不便な地域での大切な交通手段として、買物やお子様の送り迎え、通勤にご利用いただく「生活に欠かせない実用車」としても重要な役割を担ってきました。さらに、近年では室内が広く、アウトドアやスポーツなどのレジャーにも使えるタイプの軽自動車も人気を集めています。狭い道路が多い日本の中で、このように、取り回しが楽で、便利で使い勝手が良く、国民生活に浸透してきたクルマが軽自動車です。限られた寸法、排気量の中で、お客様に満足いただけるような新技術やアイデアをたくさん詰め込んだ軽自動車はまさに「芸術品」ともいえるでしょう。

2014年11月には、「日本の軽自動車」が2015年次RJC(日本自動車研究者・ジャーナリスト会議)カーオブザイヤー特別賞に選ばれました。軽自動車がこれまで成し遂げてきた目覚ましい進化と日本において果たしている役割を評価していただきました。さらにその技術は、インドや東南アジアなど新興国で生産販売されるクルマにも応用され、各国の自動車産業の発展や経済発展にも寄与しています。

その一方で、環境問題やカーボンニュートラル、省資源、省エネルギーへの取り組みを一層強化していかなければなりません。その中で経済性が高く、環境負荷が少ない軽自動車の重要度はますます高まっていくでしょう。

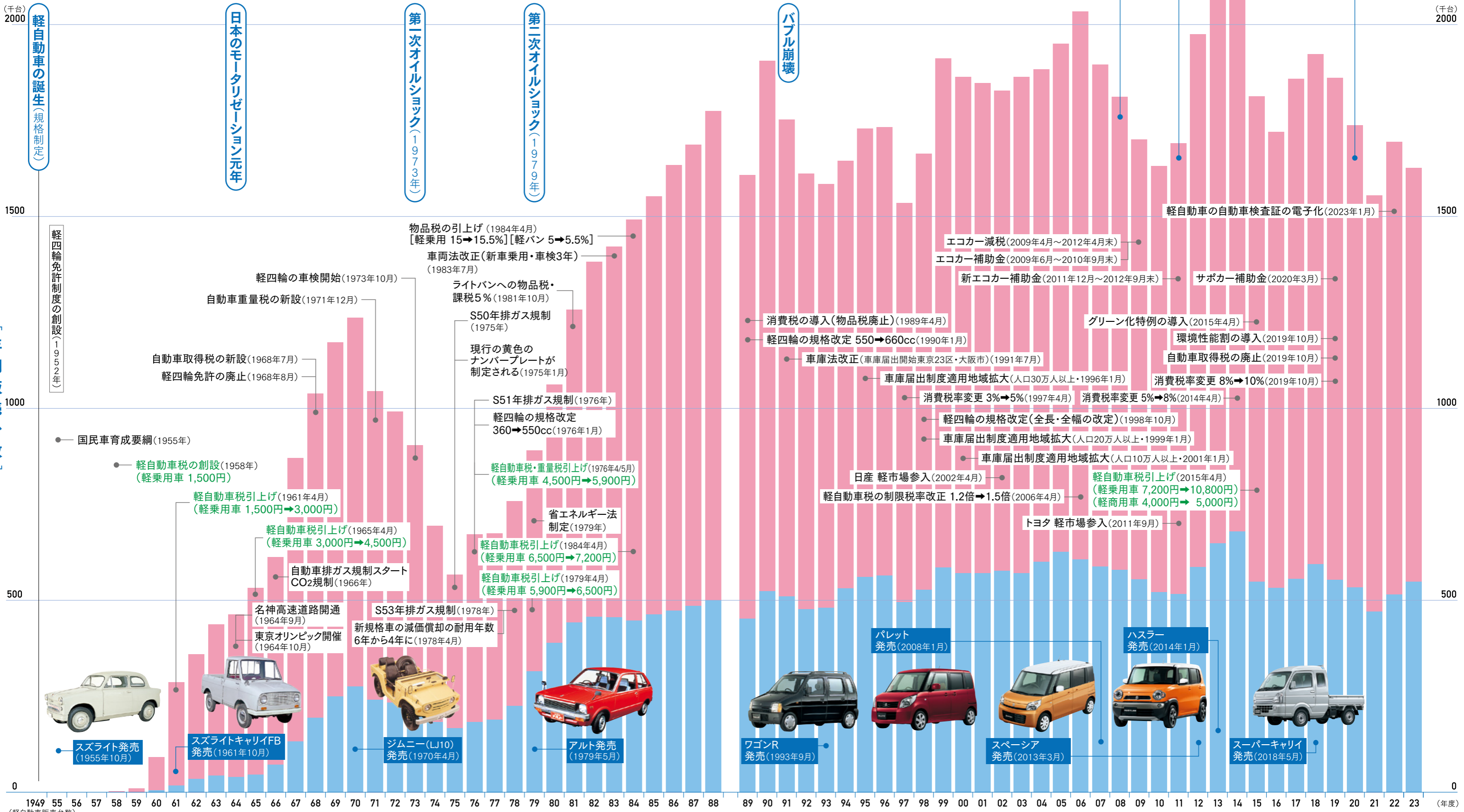
スズキが軽自動車を作り始めて69年が経ちました。これからも、技術を磨き、お客様の立場になって価値あるクルマ作りを目指してまいります。

この小冊子では、スズキの軽自動車の歴史についてご紹介しております。

ぜひ、ご一読くださいますようお願い申し上げます。

# 軽自動車市場の変遷

全銘柄 スズキ銘柄



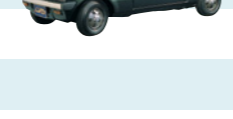
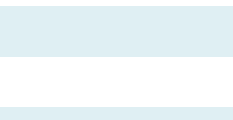
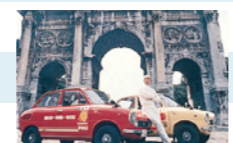
年	全銘柄	スズキ銘柄
1955	2	0
1956	10	0.2
1957	91	0.4
1958	286	0.3
1959	359	1.2
1960	436	5.2
1961	462	17
1962	531	34
1963	612	43
1964	869	39
1965	1037	46
1966	1170	72
1967	1235	132
1968	1044	194
1969	990	249
1970	903	275
1971	693	240
1972	566	233
1973	671	222
1974	674	182
1975	757	166
1976	889	183
1977	1061	225
1978	1256	314
1979	1380	388
1980	1420	442
1981	1490	456
1982	1551	455
1983	1632	446
1984	1685	463
1985	1772	472
1986	1606	485
1987	1903	500
1988	1750	452
1989	1610	523
1990	1582	510
1991	1643	476
1992	1727	480
1993	1730	531
1994	1533	560
1995	1661	564
1996	1909	495
1997	1861	527
1998	1845	585
1999	1825	570
2000	1861	570
2001	1881	600
2002	1948	626
2003	2031	606
2004	1893	587
2005	1809	579
2006	1698	554
2007	1629	521
2008	1689	516
2009	1972	586
2010	2262	647
2011	2173	679
2012	1813	549
2013	1720	532
2014	1859	556
2015	1923	594
2016	1856	554
2017	1758	539
2018	1555	470
2019	1693	516
2020	1693	552
2021	1625	552
2022	1625	552
2023	1625	552

\*全銘柄の1955～57年は、生産台数(55年 48台、56年 189台、57年 461台)。販売台数は、日本自動車工業会(58～66年)、全国軽自動車協会連合会(67年以降)調べ。スズキ銘柄はスズキ調べ。  
\*単位千台。千台未満は四捨五入



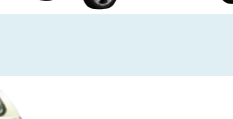
## スズライト、フロンテ、フロンテクーペ

- 1954年 1月 ● 軽四輪自動車の研究開始
- 9月 ● 最初の試作四輪車完成
- 1955年 10月 ● **スズライト 発売**  
(2サイクル・360cc・セダンSS、ライトバンSL、ピックアップSP)
- 1959年 7月 ● スズライトバンTL生産開始
- 1962年 3月 ● スズライトバンTLを一部改良
- 3月 ● **スズライトフロンテTLA 発売(初代)**
- 1963年 4月 ● **スズライトバンFE 発売**
- 5月 ● **スズライトフロンテFEA 発売**
- 5月 ● 第1回日本グランプリレース(軽自動車部門)  
スズライトフロンテ 1, 2, 4, 8位
- 1965年 4月 ● スズライトバンFEマイナーチェンジ  
新しいエンジンの分離潤滑方式CCI方式を採用  
スズライトフロンテFEA II 発売
- 1967年 5月 ● **フロンテ360 発売(2代目)**
- 1968年 8月 ● フロンテSS360「太陽の道」(ミラノ〜ナポリ間)を完走
- 11月 ● フロンテSS360 発売
- 1969年 3月 ● **スズライトバンFEをフロンテバン360にフルモデルチェンジ**
- 3月 ● フロンテSS360アジアハイウェイ走破
- 7月 ● **フロンテエステート(3ドアセダン) 発売**
- 7月 ● フロンテ360にオートクラッチ付追加発売
- 1970年 6月 ● フロンテ360 累計生産30万台達成
- 11月 ● **フロンテ71(セブティワン) 発売(3代目)**
- 1971年 5月 ● フロンテ71W 発売
- 9月 ● **フロンテクーペ 発売**
- 11月 ● 72フロンテ 発売
- 1972年 2月 ● フロンテクーペ4シーター追加発売
- 1973年 4月 ● **フロンテハッチ 発売**
- 7月 ● **フロンテフルモデルチェンジ(4代目)**
- 1976年 5月 ● フロンテ360 50年排出ガス規制適合車発売
- 6月 ● **フロンテ7-S(450cc) 発売**
- 7月 ● フロンテハッチ55 発売
- 1977年 5月 ● 53年排出ガス規制適合車フロンテ7-S(2サイクル・443cc) 発売
- 6月 ● フロンテ7-S(4サイクル・550cc) 発売
- 1979年 5月 ● **フロンテフルモデルチェンジ(5代目)**
- 1984年 9月 ● **フロンテフルモデルチェンジ(6代目)**
- 1988年 9月 ● **フロンテフルモデルチェンジ(7代目)**



## アルト

- 1979年 5月 ● **アルト 発売(初代)**  
「全国统一価格47万円」で発表。大ヒットとなる
- 1980年 5月 ● アルトにAT車追加
- 1981年 10月 ● アルト マイナーチェンジ(4サイクル車追加)
- 1983年 10月 ● アルトに4WD追加
- 1984年 9月 ● **アルトフルモデルチェンジ(2代目)**  
日本初の回転ドライバーズシート採用
- 1985年 3月 ● アルト特別仕様車「麻美スペシャル」発売
- 6月 ● アルト 国内累計販売100万台達成
- 8月 ● アルト 5ドア 発売
- 9月 ● アルトターボ 発売
- 1986年 7月 ● アルトツインカム車 発売
- 10月 ● アルト コラムAT車「アルトレジーナ」発売
- 1987年 1月 ● アルトウォークスルーバン 発売
- 2月 ● **アルトワークス 発売(初代)**  
軽初のツインカムターボエンジン搭載
- 1988年 9月 ● **アルトフルモデルチェンジ(3代目)**  
スライドスリムドア採用車を設定  
**アルトワークスフルモデルチェンジ(2代目)**
- 1989年 7月 ● アルト 国内累計販売200万台達成
- 1990年 3月 ● アルト、アルトワークスの新規格車 発売  
エンジン排気量が660ccとなった新規格車
- 1991年 11月 ● アルトハッスル 発売
- 1994年 8月 ● アルト 国内累計販売300万台達成
- 11月 ● **アルトフルモデルチェンジ(4代目)、**  
**アルトワークスフルモデルチェンジ(3代目)**
- 1995年 3月 ● アルト 低燃費車Sv追加(10・15モード燃費26.5km/L)
- 1998年 10月 ● **アルトフルモデルチェンジ(5代目)**  
軽量ボディと新開発リーンバーンエンジンにより29km/L(10・15モード)を実現  
**アルトワークスフルモデルチェンジ(4代目)**



## アルト、アルト ラパン

2002年ー 1月 ● **アルト ラパン 発売(初代)**

9月 ● 「アルト ラパン モード」 発売

10月 ● 「アルト ラパン ターボ」 発売

12月 ● 「助手席回転シート車」 発売

2003年ー 9月 ● アルト ラパンを一部改良し、「SS」「L」 発売

2004年ー 9月 ● **アルト フルモデルチェンジ(6代目)**

10月 ● アルト ラパンを一部改良し、発売(全車ベンチシート化)

2005年ー 5月 ● アルト「Gスペシャル」 発売

2008年ー11月 ● **アルト ラパン フルモデルチェンジ(2代目)**

2009年ー 5月 ● アルト30年 & 世界累計販売台数1000万台達成特別記念車発売

12月 ● **アルト フルモデルチェンジ(7代目)**

2010年ー 5月 ● アルト「G4」 発売

8月 ● アルト ラパンを一部改良し、発売(全機種エコカー減税対象)

2011年ー12月 ● **アルト エコ 発売**  
30.2km/L\*を達成

2012年ー 6月 ● アルト一部仕様変更(全機種エコカー減税対象)

2013年ー 6月 ● **アルト ラパン ショコラ 発売/アルト ラパン一部改良**

12月 ● 35.0km/L\*を達成したアルト エコ発売

2014年ー12月 ● **アルト フルモデルチェンジ(8代目)**  
37.0km/L\*を達成

2015年ー 3月 ● **アルト ターボRS 発売**

6月 ● **アルト ラパン フルモデルチェンジ(3代目)**

11月 ● アルト/アルト ラパンが2016年次 RJCカー オブ ザ イヤーを受賞 🏆

12月 ● アルト/アルト ターボRS/アルト ラパンが2015-2016 日本カー・オブ・ザ・イヤー「スモールモビリティ部門賞」を受賞 🏆

12月 ● **アルト ワークス 発売(5代目)**

2016年ー12月 ● アルト国内累計販売500万台達成

2019年ー 6月 ● アルト40周年記念特別仕様車 発売

2021年ー12月 ● **アルト フルモデルチェンジ(9代目)**

2022年ー 6月 ● アルト ラパンを一部仕様変更、**アルト ラパン LC**発売



## ワゴンR

1993年ー 9月 ● **ワゴンR 発売(初代)** 発表当初より大ヒット

12月 ● ワゴンRが軽として初の「'93-'94 RJCニュー・カー・オブ・ザ・イヤー」受賞 🏆

1995年ー 2月 ● ワゴンRインタークーラー・ターボ車追加

1996年ー10月 ● ワゴンR、発売後3年2ヶ月で国内累計販売台数50万台達成

12月 ● 福祉車両としてワゴンR車いす送迎車 発売

1998年ー 1月 ● 特別仕様車「RR(ダブルアール)」発売

10月 ● **ワゴンR フルモデルチェンジ(2代目)**

1999年ー 3月 ● ワゴンR、発売後5年7ヶ月で国内累計販売100万台達成

2003年ー 9月 ● **ワゴンR フルモデルチェンジ(3代目)**

12月 ● ワゴンR、発売後10年4ヶ月で国内累計販売台数200万台達成

2007年ー 2月 ● **ワゴンR スティングレー 発売(初代)**

5月 ● 「ワゴンR」一部改良、CVTグレード「FC」追加

2008年ー 6月 ● ワゴンR国内累計販売台数5年連続No.1 & 300万台達成記念特別仕様車「ワゴンR リミテッド」発売「ワゴンR スティングレー リミテッド」発売

9月 ● **ワゴンR フルモデルチェンジ(4代目)、ワゴンR スティングレー フルモデルチェンジ(2代目)**

2009年ー11月 ● ワゴンR/ワゴンR スティングレーが2009年次 RJCカー オブ ザ イヤーを受賞 🏆

2010年ー 8月 ● ワゴンR、ワゴンR スティングレー 一部改良 アイドリングストップシステム搭載車を設定

11月 ● 国内累計販売350万台達成を記念し特別仕様車ワゴンR リミテッド、ワゴンR スティングレー リミテッドを発売

2012年ー 9月 ● **ワゴンR フルモデルチェンジ(5代目)、ワゴンR スティングレー フルモデルチェンジ(3代目)**

2013年ー 7月 ● ワゴンR一部改良 クラストップの低燃費、先進安全技術を搭載した、特別仕様車「20周年記念車」を設定

9月 ● ワゴンR、発売20年で国内累計販売400万台達成

2014年ー 8月 ● ワゴンR、ワゴンR スティングレーに「S-エネチャージ」を搭載

2017年ー 2月 ● **ワゴンR フルモデルチェンジ(6代目)、ワゴンR スティングレー フルモデルチェンジ(4代目)**  
マイルドハイブリッドを搭載

2018年ー 8月 ● ワゴンR25周年記念車 発売

2020年ー 1月 ● ワゴンR、ワゴンR スティングレー一部改良

2021年ー 9月 ● **ワゴンR スマイル 発売**

2022年ー 8月 ● ワゴンR、ワゴンR スティングレー一部仕様変更、**ワゴンR カスタムZ** 発売

2023年ー 7月 ● ワゴンR スマイル一部仕様変更、特別仕様車「HYBRID Sリミテッド」発売

2023年ー11月 ● ワゴンRシリーズ国内累計販売500万台達成



\*燃料消費率JC08モード走行(国土交通省審査値:2WD車)

## パレット、スペース

2008年- 1月	● <b>パレット 発売</b>	
12月	● パレット特別仕様車「Gリミテッド」発売	
2009年- 9月	● <b>パレットSW 発売</b>	
2010年- 8月	● パレット、パレットSW一部改良 パレットにターボ機種を設定	
11月	● パレット、パレットSWに特別仕様車「リミテッド」設定	
2011年-11月	● パレット、パレットSWに特別仕様車「リミテッドII」設定	
2012年- 6月	● パレット、パレットSWにアイドリングストップシステム搭載車を設定	
2013年- 3月	● <b>スペース 発売(初代)</b>	
6月	● <b>スペース カスタム 発売(初代)</b>	
9月	● スペース、スペース カスタムにレーダーブレーキサポート装着車を設定	
11月	● スペース、スペース カスタムが 2013-2014 日本カー・オブ・ザ・イヤー スモールモビリティ部門賞を受賞 🏆	
2014年- 6月	● スペースXRリミテッド スペース カスタムXSリミテッド 発売	
2015年- 5月	● スペース、スペース カスタムに軽自動車初となるステレオカメラ方式の衝突被害軽減システムを搭載	
8月	● スペース、スペース カスタムのターボ車にS-エネチャージを搭載	
2016年-12月	● <b>スペース カスタムZ 発売</b>	
2017年-12月	● <b>スペース フルモデルチェンジ(2代目)</b> <b>スペース カスタム フルモデルチェンジ(2代目)</b>	
2018年-12月	● <b>スペース ギア 発売</b>	
2020年- 8月	● スペース、スペース カスタム、スペース ギアの安全装備を充実して発売	
2021年- 4月	● スペース 国内累計販売台数100万台を達成	
2021年-12月	● スペース、スペース カスタム、スペース ギア一部仕様変更、「スズキコネクト」に対応 スペース ギアに特別仕様車「MY STYLE」を設定	
2022年- 8月	● <b>スペース ベース 発売</b>	
2023年-11月	● <b>スペース フルモデルチェンジ(3代目)</b> <b>スペース カスタム フルモデルチェンジ(3代目)</b>	

## Kei、ハスラー

1998年-10月	● <b>Kei 発売</b>	
1999年- 2月	● Kei特別仕様車リミテッド 発売	
3月	● <b>Kei 5ドア 発売</b>	
5月	● スポーツ仕様の特装車「Kei スペシャル」 発売	
12月	● Kei特別仕様車 Xリミテッド 発売	
2000年- 5月	● Keiスズキ創立80周年記念車 発売	
10月	● Keiを一部改良、Keiスポーツ 発売	
11月	● 国際スキー連盟「FIS」とタイアップした特別仕様車 「Kei FISフリースタイルワールドカップリミテッド」 発売	
12月	● 「Kei 21世紀記念スペシャル EX」 発売	
2001年- 4月	● Keiを一部仕様変更、カスタマイズ感を演出した個性的な「Kei DJ」 発売	
4月	● モータースポーツ参加の入門車「KeiスポーツR」 発売	
2002年- 1月	● 国際スキー連盟「FIS」とタイアップした特別仕様車 「Kei FISフリースタイルワールドカップリミテッド」 発売	
5月	● Kei特別仕様車「Eリミテッド」 発売	
11月	● <b>Kei「ワークス」 発売</b>	
2005年- 5月	● Kei特別仕様車「A スペシャル」「Bターボ スペシャル」 発売	
2014年- 1月	● <b>ハスラー 発売(初代)</b>	
10月	● ハスラーが2014 - 2015年次 日本自動車殿堂カー オブ ザ イヤーを受賞 🏆	
11月	● ハスラーが2015年次 RJCカー オブ ザ イヤーを受賞 🏆	
12月	● RJC カー オブ ザ イヤー受賞記念 ハスラー特別仕様車「J STYLE」 発売	
2015年- 5月	● ハスラーにS-エネチャージを搭載して発売	
12月	● ハスラーを一部改良、特別仕様車「J STYLE II」 発売	
2016年-12月	● ハスラー特別仕様車「Fリミテッド」 発売	
2017年-12月	● ハスラー特別仕様車「FリミテッドII」、ハスラー特別仕様車「J STYLE III」 発売	
2018年- 7月	● ハスラー特別仕様車「タフワイルド」 発売	
11月	● ハスラーを一部仕様変更、特別仕様車「ワンダラー」 発売	
2020年- 1月	● <b>ハスラー フルモデルチェンジ(2代目)</b>	
11月	● ハスラー特別仕様車「J STYLE」 発売	
2022年- 5月	● ハスラーを一部仕様変更、特別仕様車「J STYLE II」 発売	
2024年- 5月	● ハスラーを一部仕様変更、 <b>ハスラー タフワイルド発売</b>	

## セルボ、マイティボーイ、カプチーノ、キャラ、MRワゴン、ツイン

- 1977年-10月 ● **セルボ 発売(初代)**
- 1982年- 6月 ● **セルボ フルモデルチェンジ(2代目)**
- 1983年- 2月 ● **マイティボーイ 発売**  
45万円の低価格と、ピックアップスタイルの個性的なスタイリングが特徴
- 11月 ● セルボ ターボ車追加  
スズキ初のターボエンジン搭載車
- 1988年- 1月 ● **セルボ フルモデルチェンジ(3代目)**  
世界初、電動パワーステアリングを装着
- 1990年- 7月 ● **セルボ・モード フルモデルチェンジ(4代目)**
- 1991年-11月 ● **カプチーノ 発売**
- 1993年- 1月 ● **キャラ 発売**
- 1995年-10月 ● セルボ・モード マイナーチェンジ
- 1996年- 9月 ● セルボC(クラシック) 発売
- 2001年-12月 ● **MRワゴン 発売(初代)**
- 2003年- 1月 ● **ツイン 発売**  
軽自動車として初めてハイブリッドシステムを搭載
- 2006年- 1月 ● **MRワゴン フルモデルチェンジ(2代目)**
- 11月 ● **セルボ 発売(5代目)**
- 12月 ● **MRワゴン Wit 発売(初代)**
- 2007年- 6月 ● セルボ特別仕様車「G リミテッド」 発売
- 10月 ● 軽乗用車「セルボ」に上級グレード「SR」を設定して発売  
日本初の「直噴(DI)ターボエンジン+CVT」を搭載
- 2008年- 5月 ● 「セルボ」を一部改良
- 2009年- 5月 ● 「セルボ」シリーズを一部改良して発売
- 2011年- 1月 ● **MRワゴン フルモデルチェンジ(3代目)**
- 2013年- 7月 ● **MRワゴン Wit フルモデルチェンジ(2代目)**  
シリーズ全機種に「エネチャージ」を搭載

## ジムニー

- 1970年- 4月 ● **ジムニー(LJ10) 発売(初代)**  
空冷エンジン搭載ジムニー(LJ10) 発売(初代)
- 1971年- 1月 ● ジムニーマイナーチェンジ(エンジン25馬力から27馬力に出力向上)
- 1972年- 5月 ● 水冷エンジン搭載ジムニー(LJ20) 発売  
水冷2サイクル2気筒リードバルブエンジン搭載  
ジムニーバンを新機種として発売
- 1975年- 2月 ● ジムニー 4人乗り(幌タイプ) 発売
- 1976年- 5月 ● 軽新規格ジムニー-55(SJ10)(550cc) 発売
- 1977年- 6月 ● ニュージムニー-55(SJ10) 発売  
前後輪のトレッドを100mm拡大し外観デザインも変更
- 1981年- 5月 ● **ジムニー(SJ30) フルモデルチェンジ(2代目)**
- 1986年- 1月 ● ジムニーにEPIターボ車を追加するなどマイナーチェンジ  
SJ30型をマイナーチェンジし、4サイクル3気筒水冷F5A(ターボ付)エンジンを搭載したJA71型を追加
- 1987年-11月 ● ジムニー-550ハイルーフパノラマウインドー車追加
- 1990年- 3月 ● 軽新規格ジムニー(JA11)(660cc) 発売
- 1992年- 7月 ● ジムニーにAT車を設定
- 1995年- 2月 ● 特別仕様車「ランドベンチャー」 発売
- 11月 ● ジムニーに軽乗用車仕様 発売(JA12/22)  
(これまでは全て商用車仕様)
- 1998年-10月 ● **ジムニー(JB23) フルモデルチェンジ(3代目)**  
本格的オフロード性能はそのままに、快適性を大幅に向上させフルモデルチェンジ
- 2000年- 3月 ● ジムニー-L 発売(ジムニーの2WD仕様車)
- 2010年- 4月 ● 誕生40年記念車「X-Adventure」 発売
- 2012年- 5月 ● 一部仕様変更、特別仕様車「X-Adventure」 発売
- 2018年- 7月 ● **ジムニー(JB64) フルモデルチェンジ(4代目)**  
20年ぶりのフルモデルチェンジ
- 2020年-11月 ● 初代ジムニーが2020 日本自動車殿堂「歴史遺産車」に選定



## キャリイ

- 1961年-10月 ● **スズライトキャリイFB 発売(初代)**  
当時、軽四輪トラック最大の荷台面積、軽四輪車最高出力の21馬力、全国標準現金価格29.5万円で好評を博した
- 1965年- 6月 ● **スズライトキャリイ(L20) フルモデルチェンジ(2代目)**  
FB型のセミキャブ型式、広い荷台、力強いエンジンを踏襲しながら居住性の向上、乗用ムードを狙った。フロントサスペンションはウィッシュボーン型独立懸架とした
- 1966年- 3月 ● **キャリイ(L30) フルモデルチェンジ(3代目)**  
荷台の広いキャブオーバー型のトラック。コストをおさえた積載本位のタイプとして、L20型と並売された
- 1967年- 1月 ● **キャリイ(L31) 発売**
- 1969年- 7月 ● **キャリイ(L40) フルモデルチェンジ(4代目)**  
L30型のモデルチェンジとして商品力を向上。フロントと共通の計器類で乗用車的ムードを出して、外観も特長的な角型ヘッドランプを採用
- 1972年- 5月 ● **キャリイ(L50) フルモデルチェンジ(5代目)**
- 1976年- 5月 ● **キャリイ55(ST10) 発売**  
キャリイ55(ST10) 2サイクル3気筒水冷539ccエンジンを搭載
- 9月 ● **キャリイワイド(ST20) フルモデルチェンジ(6代目)**
- 1977年-10月 ● **キャリイ国内累計販売100万台達成**
- 1979年- 4月 ● **キャリイ(ST30) フルモデルチェンジ(7代目)**
- 1981年- 7月 ● **キャリイ4サイクル車(ST40) 発売**
- 1985年- 3月 ● **キャリイ(DA71) フルモデルチェンジ(8代目)**
- 1987年- 6月 ● **キャリイ国内累計販売200万台達成**
- 1990年- 3月 ● **キャリイの新規格車 発売**
- 1991年- 9月 ● **キャリイ(DC51) フルモデルチェンジ(9代目)**
- 1996年- 9月 ● **キャリイ、トラックとして初めて国内累計販売300万台達成**
- 1999年- 1月 ● **キャリイ(DA52) フルモデルチェンジ(10代目)**
- 2010年- 1月 ● **キャリイ国内累計販売400万台達成**
- 2011年-10月 ● **50周年記念車 キャリイ KCリミテッド 発売**
- 2013年- 9月 ● **キャリイ(DA16T) フルモデルチェンジ(11代目)**  
フルキャブタイプのショートホイールベース仕様を統一
- 2014年- 8月 ● **キャリイにAGS搭載車を設定し発売**
- 2018年- 5月 ● **スーパーキャリイ 発売**
- 2019年- 9月 ● **キャリイに軽トラック初※の夜間歩行者検知に対応した衝突被害軽減ブレーキを搭載して発売**
- 2021年- 8月 ● **60周年記念車 発売**
- 2022年- 4月 ● **キャリイに4AT車を設定して発売**
- 2023年- 8月 ● **キャリイ、スーパーキャリイに車体色「モスグレーメタリック」を新たに採用**
- 2023年-12月 ● **スーパーキャリイに特別仕様車「Xリミテッド」を設定して発売**
- 2024年- 4月 ● **キャリイシリーズを一部仕様変更、キャリイ、スーパーキャリイにスズキ セーフティ サポートを標準装備**



## キャリイバン、エブリイ、エブリイワゴン

- 1964年- 9月 ● **スズライトキャリイバンFBD 発売(初代)**  
キャリイFBをベースに車体後部をバン型とした。  
定員4名で200kg積、定員2名で300kg積
- 1966年- 1月 ● **スズライトキャリイバン(L20V) フルモデルチェンジ(2代目)**
- 1968年- 3月 ● **キャリイバン(L30V) フルモデルチェンジ(3代目)**  
荷室の広いキャブオーバー型を採用した
- 1969年-11月 ● **キャリイバン(L40V) フルモデルチェンジ(4代目)**
- 1970年 ● **大阪万博でキャリイバン電気自動車が活躍**
- 1972年- 8月 ● **キャリイバン(L50V) フルモデルチェンジ(5代目)**  
新開発の水冷2サイクル2気筒リードバルブエンジンを採用
- 1976年- 5月 ● **キャリイ55バン(ST10V) 発売**
- 11月 ● **キャリイワイドバン(ST20V) フルモデルチェンジ(6代目)**
- 1979年- 6月 ● **キャリイバン(ST30V) フルモデルチェンジ(7代目)**
- 1982年-11月 ● **キャリイバンをマイナーチェンジし、「キャリイバン・エブリイ」(ST40V)として発売**
- 1985年- 3月 ● **エブリイ フルモデルチェンジ(8代目)**  
エブリイ フルモデルチェンジ。エブリイに3AT車、ハイルーフ車を設定
- 1990年- 3月 ● **エブリイの新規格車 発売**
- 1991年- 4月 ● **エブリイシリーズ国内累計販売100万台達成**
- 9月 ● **エブリイ フルモデルチェンジ(9代目)**
- 1999年- 1月 ● **エブリイ フルモデルチェンジ(10代目)**
- 6月 ● **エブリイワゴン 発売(初代)**
- 2005年- 8月 ● **エブリイ フルモデルチェンジ(11代目)、エブリイワゴン フルモデルチェンジ(2代目)**
- 2006年-11月 ● **エブリイシリーズ国内累計販売200万台達成**
- 2015年- 2月 ● **エブリイ フルモデルチェンジ(12代目)、エブリイワゴン フルモデルチェンジ(3代目)**
- 2018年- 6月 ● **エブリイシリーズ国内累計販売300万台達成**
- 2019年- 6月 ● **エブリイ、エブリイワゴンの安全装備を充実させて発売**
- 2024年- 2月 ● **エブリイ、エブリイワゴンを一部仕様変更、CVT車を新たに設定**



※軽自動車トラッククラス。2019年9月時点、スズキ調べ

## 軽自動車の使いやすさ

コンパクトだから使いやすい

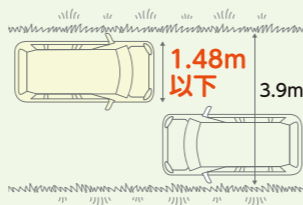
### コンパクトで狭い道も快適!

日本の道路の約85%は、道幅平均3.9m<sup>\*1</sup>の狭い市町村道。車幅1.48m以下の小さい軽自動車なら、市街地の路地や農道もスムーズに。対向車とのすれ違いも安心です。

※1 一般道路全体の平均幅員は4.4m



資料:2022年3月31日現在、「道路統計年報2023」国土交通省 \*幅員は車道部のみ



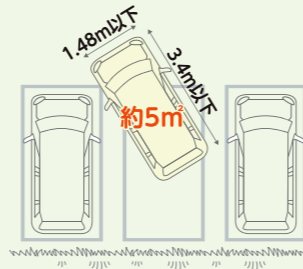
### 駐車もらくらくスムーズ!

軽自動車の最小回転半径は平均4.5m<sup>\*2</sup>。小回りがきくので、わずかなスペースでの駐車もらくできます。また専有面積約5m<sup>2</sup>の省スペース性は、渋滞の緩和にもひと役かっています。

※2 「自動車ガイドブック vol.70 2023~2024」日本自動車工業会のカatalogに掲載された軽乗用車の平均値

軽自動車の選択理由	(複数回答)	運転がしやすい	狭い道で使いやすい	駐車車がしやすい
使いやすさ				
軽乗用系	69%	43%	34%	
軽キャブバン	32%	41%	10%	
軽トラック	58%	64%	13%	

資料:「2023年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2024年3月 日本自動車工業会



出版: 一般社団法人 日本自動車工業会 軽自動車委員会 発行「知れば知るほどいいね!軽自動車」  
一般社団法人 全国軽自動車協会連合会

## 軽トラ市のご紹介

「軽トラ市」が地域活性化に貢献しています。

「軽トラ市」とは、軽トラックで運んできた地産の新鮮野菜などを軽トラックの荷台をそのまま店舗に見立て、対面販売する特設の朝市のことです。農・工・商が連携して地域を活性化するイベントとして日本全国で開催されています。安心・安全なものを求める消費者が増える中、野菜や果物、地域の特産品、加工食品、水産品、手工芸品等々、生産した人から直接安く買う事ができる機会として定期開催も増えて来ています。



川南町 トロンロン軽トラ市



長野市 しののけ軽トラ市

地域の  
魅力発信の  
お手伝い!

### 私たちは、全国の「軽トラ市」を応援しています!

- 主催者は、地域の商工会が中心となっていますが、地域商店街による実行委員会や観光協会が中心となって行われる例もあります。
- 開催規模は、軽トラック数台で開催する小規模なところから100台以上で開催する大規模なところまで様々。
- 岩手県雫石町の「元祖しずくしい軽トラ市」、愛知県新城市の「しんしろ軽トラ市 のんほいロット」、宮崎県川南町の「『定期朝市』トロンロン軽トラ市」は、全国でも有数な軽トラ市とされており、「日本三大軽トラ市」と呼ばれています。
- 「軽トラ市」にみられるように、軽自動車は地域にとっての交通手段に加え、重要な生活の道具でもあり、地域活性化にも大切な役割を果たしています。

## 軽自動車づくりで培われた高い技術は、世界で生産販売されるクルマにも活かされています。

スズキのインド子会社マルチ・スズキ社(当時はマルチ・ウドヨグ社)では、1983年より、日本で販売していた軽自動車「アルト」をベースに、横幅を広げて800ccのエンジンを搭載した「マルチ800」を生産し、ベストセラーとなりました。現在、インドでは年間約179万台の販売台数中、約2割はアルト、エブリイなど、軽自動車をベースとしたクルマです。また、パキスタンなどでも日本の軽自動車をベースとしたクルマが生産され、その国のモータリゼーションを進める原動力となってきました。私たちが軽自動車という規格の中で磨いてきた高い技術はこれらの国で生産する車に活かされているのです。また、それらの国で生産する車にも軽自動車と同じ部品が使われるなど、軽自動車はグローバル市場において成長発展してきた、世界に通用するエコカーと言えます。



マルチ800(アルト)

## 海外市場におけるスズキ軽自動車の展開例

軽自動車をベースとしたクルマ。( )内はベースとなった軽自動車



インド



ALTO K10(アルト)



S-PRESSO(アルト)



EECO(エブリイ)

パキスタン



RAVI(キャリイ)



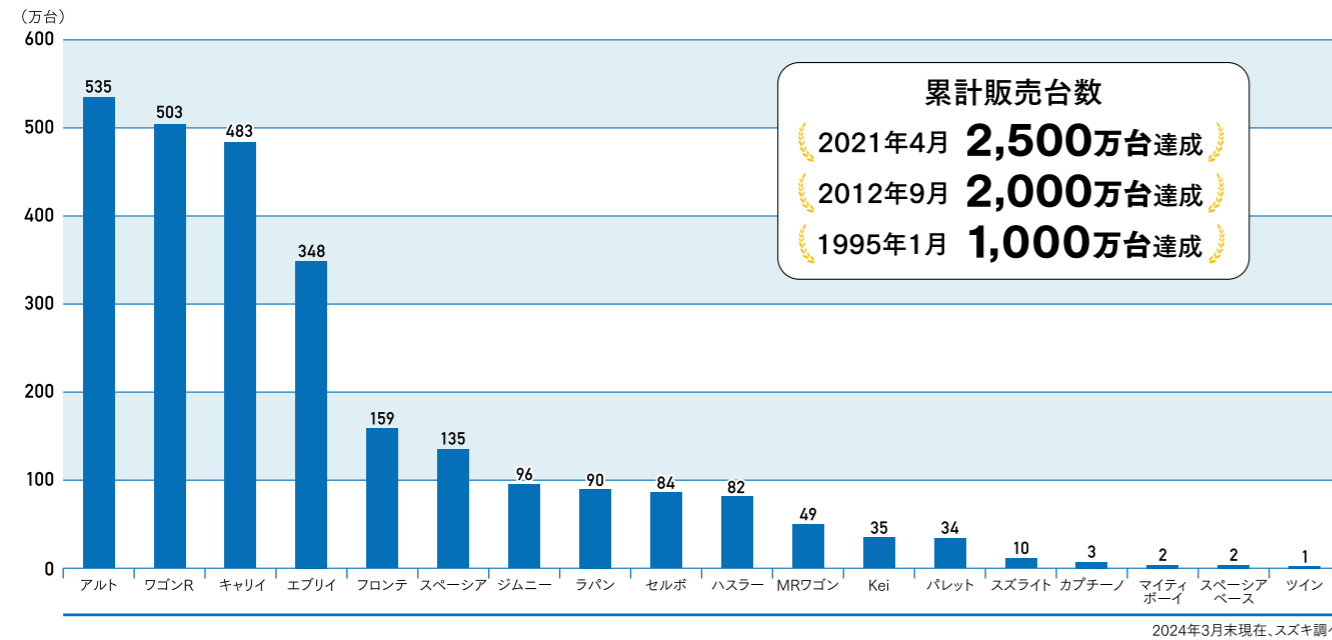
WAGON R(ワゴンR)



ALTO(アルト)

## スズキ軽自動車の累計販売台数

### 車種別の国内累計販売台数



### おかげさまでミリオンセラー



	100万台達成		200万台達成		300万台達成		400万台達成		500万台達成	
	達成時期	達成年数	達成時期	達成年数	達成時期	達成年数	達成時期	達成年数	達成時期	達成年数
アルト	1985年6月	6年2ヶ月	1989年7月	10年3ヶ月	1994年8月	15年4ヶ月	2003年3月	23年11ヶ月	2016年12月	37年8ヶ月
キャリイ	1977年10月	16年1ヶ月	1987年6月	25年9ヶ月	1996年9月	35年	2010年1月	48年4ヶ月		
ワゴンR	1999年3月	5年7ヶ月	2003年12月	10年4ヶ月	2008年6月	14年10ヶ月	2013年9月	20年1ヶ月	2023年11月	30年3ヶ月
エブリイ	1991年4月	26年8ヶ月	2006年11月	42年3ヶ月	2018年6月	53年10ヶ月				
フロンテ	1975年	14年								
スペースシア	2021年4月	8年2ヶ月								

軽自動車は、日々のみなさんの介助もサポートしています。

スズキ福祉車両  
**WITH** シリーズ  
ウィズシリーズ

車いす移動車



スペース 車いす移動車

エブリイワゴン 車いす移動車

エブリイ 車いす移動車

昇降シート車



ワゴンR 昇降シート車

ワゴンR カスタムZ 昇降シート車

## SUZUKI Safety Support

よくわかる! スズキの予防安全技術

毎日の安心と、クルマの楽しさを支える。  
**スズキの安全技術**



スズキの安全技術、それは、乗る人の毎日を想い、小さなクルマで大きな安心を届ける技術。  
前方・後方の視界をしっかりと確保するための大きな窓や視認性の高いディスプレイ、操作しやすいスイッチ類など、誰もが安心して乗れる運転のしやすさを考えた基本安全。  
ヒヤリとする一瞬までも最小限に抑え、事故そのものを未然に防ぐ予防安全技術「スズキ セーフティ サポート」。  
衝撃吸収ボディをはじめ、万一の衝突被害を軽減する衝突安全。  
培い続けてきた安全技術の数々が、いつも、毎日の安心につながっていること。  
小さなクルマに、大きな安心をのせて。  
スズキは、人とクルマの楽しい毎日を支え、事故のない未来に向けて走り続けます。

### ドライバーの安全運転を、さまざまな技術でサポート

- 「ぶつからない」をサポート <衝突被害軽減ブレーキ>
  - デュアルセンサーブレーキサポートII
  - デュアルセンサーブレーキサポート
  - デュアルカメラブレーキサポート
  - 後退時ブレーキサポート
  - 低速時ブレーキサポート(前進・後退)
- 「運転操作の軽減」をサポート
  - アダプティブクルーズコントロール(ACC)
  - 標識認識機能
- 「標識を見逃さない」をサポート
- 「前に飛び出さない/後ろに飛び出さない」をサポート
  - 誤発進抑制機能
  - 後方誤発進抑制機能
- 「バック時の安全確認」をサポート
  - リアクロストラフィックアラート
- 「見やすい情報表示」でサポート
  - ヘッドアップディスプレイ
- 「車線中央付近の走行維持」をサポート
  - 車線維持支援機能
- 「夜道の見やすさ」をサポート
  - ハイビームアシスト
- 「車線をはみ出さない/ふらつかない」をサポート
  - 車線逸脱抑制機能
  - 車線逸脱警報機能
  - ふらつき警報機能
- 「出遅れない」をサポート
  - 先行車発進お知らせ機能
- 「車線変更時の側方確認」をサポート
  - ブラインドスポットモニター
- 「見えない場所の視界」をサポート
  - 全方位モニター用カメラ

! <デュアルセンサーブレーキサポートII・デュアルセンサーブレーキサポート・デュアルカメラブレーキサポート・後退時ブレーキサポート・低速時ブレーキサポート(前進・後退)について>  
■運転支援を目的としています。■検知性能・制御性能には限界があります。これらの機能に頼った運転はせず、常に安全運転を心がけてください。■状況によっては正常に作動しない場合があります。■対象物、天候状況、道路状況などの条件によっては、衝突を回避または被害を軽減できない場合があります。■ハンドル操作やアクセル操作による回避行動を行なっているときは、作動しない場合があります。■ご注意ください。■詳しくは販売会社にお問い合わせください。

\*各機能の作動には一定の条件があります。詳しくはスズキホームページ内、該当のページをご覧ください。  
\*各機能は車種・グレード・仕様により異なります。詳しくは各車種のカタログをご覧ください。  
\*掲載の機能は2024年9月時点のものです。

### ラインアップ (一部の車種を掲載)



	乗用車						軽商用車		
	アルト	エブリイワゴン	ジムニー	スペースシア	ハスラー	ワゴンR スマイル	スペースシア ベース	エブリイ	キャリイ
衝突被害軽減ブレーキ※1	DCBS	DCBS	DSBS	DSBSII	DCBS	DCBS	DCBS	DCBS	DCBS
低速時ブレーキサポート(前進・後退)				○					
後退時ブレーキサポート	○	○			○	○			
誤発進抑制機能	前後	前後	前	前後	前後	前後	前後	前後	前後※2
車線逸脱抑制機能				○	○				
車線逸脱警報機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ふらつき警報機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アダプティブクルーズコントロール				(全車速追従)	(全車速追従)	(全車速追従)	(全車速追従)		
標識認識機能	○		○	○	○	○			
ヘッドアップディスプレイ	○					○			
ハイビームアシスト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
先行車発進お知らせ機能	○	○	○	○	○	○	○	○	○
全方位モニター用カメラ	○			○	○	○	○		
車線維持支援機能						○			

※1 DSBS IIは、デュアルセンサーブレーキサポートIIの略称です。DSBSは、デュアルセンサーブレーキサポートの略称です。DCBSは、デュアルカメラブレーキサポートの略称です。  
※2 キャリイシリーズは、「ブレーキ制御付後方誤発進抑制機能」となります。

## 軽自動車・登録車の年度別・都道府県別 届出台数・登録台数の比率

日本の自動車販売台数において、軽自動車の占める割合は2023年度で35.9%となっています。(表1) これを都道府県別に見てみると、2つの県で軽自動車の比率が5割を超えています。(表2) また、都道府県別の普及台数(表3)を見てみると、100世帯あたりの軽自動車の普及台数は全国平均で52.1台となり、2世帯に1台は軽自動車を持っている、という結果になっています。この中でも、長野県、鳥取県では1世帯に1台持っているという「一家に1台」という状況になっています。100世帯あたり90台以上という県も6県あります。逆に東京都、神奈川県、大阪府などの大都市を持つ県では普及台数が少なく、公共交通機関が利用しにくい地域では、軽自動車は生活に欠かせない移動手段となっていることがわかります。軽自動車は日本の道がつくってきたクルマであり、その必要性は年々高まっています。

[表1] 軽四輪・登録車の届出・登録台数推移(1970~2023年度)

年度	軽四輪		登録車		軽+登録車		軽四輪比率
	台数	前年比	台数	前年比	台数	前年比	
1970(S.45)	1,234,822	105.6%	2,859,847	102.6%	4,094,669	103.5%	30.2%
1971(S.46)	1,043,698	84.5%	2,969,393	103.6%	4,013,091	97.8%	26.0%
1972(S.47)	996,144	95.4%	3,636,264	121.9%	4,632,408	115.0%	21.5%
1973(S.48)	902,911	90.6%	3,696,827	102.1%	4,599,738	99.6%	19.6%
1974(S.49)	692,554	76.7%	3,335,547	90.3%	4,028,101	87.6%	17.2%
1975(S.50)	565,576	81.7%	3,638,849	109.1%	4,204,425	104.4%	13.5%
1976(S.51)	670,895	118.6%	3,536,114	97.2%	4,207,009	100.1%	15.9%
1977(S.52)	674,359	100.5%	3,555,711	100.6%	4,230,070	100.5%	15.9%
1978(S.53)	756,715	112.2%	4,114,249	115.7%	4,870,964	115.2%	15.5%
1979(S.54)	888,531	117.4%	4,300,203	104.5%	5,188,734	106.5%	17.1%
1980(S.55)	1,061,232	119.4%	3,934,482	91.5%	4,995,714	96.3%	21.2%
1981(S.56)	1,255,912	118.3%	3,911,603	99.4%	5,167,515	103.4%	24.3%
1982(S.57)	1,379,641	109.9%	3,954,510	101.1%	5,334,151	103.2%	25.9%
1983(S.58)	1,419,788	102.9%	4,034,845	102.0%	5,454,633	102.3%	26.0%
1984(S.59)	1,489,934	104.9%	3,994,200	99.0%	5,484,134	100.5%	27.2%
1985(S.60)	1,551,179	104.1%	4,022,428	100.7%	5,573,607	101.6%	27.8%
1986(S.61)	1,632,035	105.2%	4,120,596	102.4%	5,752,631	103.2%	28.4%
1987(S.62)	1,684,605	103.2%	4,528,377	109.9%	6,212,982	108.0%	27.1%
1988(S.63)	1,771,879	105.2%	4,977,210	109.9%	6,749,089	108.6%	26.3%
1989(H.1)	1,606,386	90.7%	5,844,480	117.4%	7,450,866	110.4%	21.6%
1990(H.2)	1,902,721	118.4%	5,900,341	101.0%	7,803,062	104.7%	24.4%
1991(H.3)	1,750,297	92.0%	5,678,642	96.2%	7,428,939	95.2%	23.6%
1992(H.4)	1,610,418	92.0%	5,270,878	92.8%	6,881,296	92.6%	23.4%
1993(H.5)	1,582,127	98.2%	4,807,889	91.2%	6,390,016	92.9%	24.8%
1994(H.6)	1,643,039	103.9%	5,055,374	105.1%	6,698,413	104.8%	24.5%
1995(H.7)	1,726,850	105.1%	5,170,855	102.3%	6,897,705	103.0%	25.0%
1996(H.8)	1,729,990	100.2%	5,561,608	107.6%	7,291,598	105.7%	23.7%
1997(H.9)	1,533,077	88.6%	4,747,089	85.4%	6,280,166	86.1%	24.4%
1998(H.10)	1,660,689	108.3%	4,213,480	88.8%	5,874,169	93.5%	28.3%
1999(H.11)	1,908,701	114.9%	3,980,658	94.5%	5,889,359	100.3%	32.4%
2000(H.12)	1,861,016	97.5%	4,119,274	103.5%	5,980,290	101.5%	31.1%
2001(H.13)	1,844,940	99.1%	3,979,834	96.6%	5,824,774	97.4%	31.7%
2002(H.14)	1,824,748	98.9%	4,043,464	101.6%	5,868,212	100.7%	31.1%
2003(H.15)	1,861,231	102.0%	4,029,315	99.7%	5,890,546	100.4%	31.6%
2004(H.16)	1,880,989	101.1%	3,939,733	97.8%	5,820,722	98.8%	32.3%
2005(H.17)	1,948,362	103.6%	3,913,183	99.3%	5,861,545	100.7%	33.2%
2006(H.18)	2,030,616	104.2%	3,587,929	91.7%	5,618,545	95.9%	36.1%
2007(H.19)	1,893,043	93.2%	3,426,577	95.5%	5,319,620	94.7%	35.6%
2008(H.20)	1,808,877	95.6%	2,891,902	84.4%	4,700,779	88.4%	38.5%
2009(H.21)	1,698,191	93.9%	3,182,073	110.0%	4,880,264	103.8%	34.8%
2010(H.22)	1,628,787	95.9%	2,972,348	93.4%	4,601,135	94.3%	35.4%
2011(H.23)	1,688,937	103.7%	3,064,336	103.1%	4,753,273	103.3%	35.5%
2012(H.24)	1,972,600	116.8%	3,237,690	105.7%	5,210,290	109.6%	37.9%
2013(H.25)	2,261,834	114.7%	3,430,328	105.9%	5,692,162	109.2%	39.7%
2014(H.26)	2,173,131	96.1%	3,123,980	91.1%	5,297,111	93.1%	41.0%
2015(H.27)	1,813,328	83.4%	3,124,406	100.0%	4,937,734	93.2%	36.7%
2016(H.28)	1,719,970	94.9%	3,357,933	107.5%	5,077,903	102.8%	33.9%
2017(H.29)	1,858,875	108.1%	3,338,234	99.4%	5,197,109	102.3%	35.8%
2018(H.30)	1,922,999	103.4%	3,336,590	100.0%	5,259,589	101.2%	36.6%
2019(H.31)	1,855,967	96.5%	3,182,760	95.4%	5,038,727	95.8%	36.8%
2020(R.2)	1,757,748	94.7%	2,898,884	91.1%	4,656,632	92.4%	37.7%
2021(R.3)	1,554,971	88.5%	2,660,855	91.8%	4,215,826	90.5%	36.9%
2022(R.4)	1,692,689	108.9%	2,692,960	101.2%	4,385,649	104.0%	38.6%
2023(R.5)	1,625,481	96.0%	2,903,187	107.8%	4,528,668	103.3%	35.9%

(資料)軽四輪:全軽自協、登録車:自販連

[表2] 都道府県別 届出軽四輪比率(2023年度)

都道府県	2023年4月~2024年3月			
	軽四輪	登録車	合計	軽四比率
北海道	61,041	126,441	187,482	32.6%
青森	20,193	28,581	48,774	41.4%
秋田	18,241	21,857	40,098	45.5%
岩手	18,943	23,933	42,876	44.2%
山形	19,996	26,817	46,813	42.7%
宮城	29,643	55,722	85,365	34.7%
福島	27,856	42,824	70,680	39.4%
東北計	134,872	199,734	334,606	40.3%
茨城	40,683	74,793	115,476	35.2%
栃木	29,282	55,233	84,515	34.6%
群馬	37,286	64,509	101,795	36.6%
埼玉	83,793	157,982	241,775	34.7%
千葉	66,291	136,749	203,040	32.6%
東京	55,496	225,720	281,216	19.7%
神奈川	65,148	203,665	268,813	24.2%
山梨	14,734	19,534	34,268	43.0%
新潟	44,307	46,511	90,818	48.8%
関東計	437,020	984,696	1,421,716	30.7%
静岡	71,541	95,441	166,982	42.8%
愛知	100,591	244,949	345,540	29.1%
岐阜	38,590	58,100	96,690	39.9%
三重	36,544	51,980	88,524	41.3%
長野	43,317	49,952	93,269	46.4%
富山	18,710	26,853	45,563	41.1%
石川	18,666	31,125	49,791	37.5%
福井	14,762	21,323	36,085	40.9%
中部計	342,721	579,723	922,444	37.2%
滋賀	25,852	38,090	63,942	40.4%
京都	31,499	56,785	88,284	35.7%
大阪	67,306	180,577	247,883	27.2%
兵庫	59,792	123,095	182,887	32.7%
奈良	17,088	28,910	45,998	37.1%
和歌山	18,245	19,706	37,951	48.1%
近畿計	219,782	447,163	666,945	33.0%
香川	18,746	21,844	40,590	46.2%
徳島	12,167	15,827	27,994	43.5%
愛媛	21,515	26,609	48,124	44.7%
高知	12,971	13,097	26,068	49.8%
四国計	65,399	77,377	142,776	45.8%
鳥取	12,303	13,140	25,443	48.4%
島根	16,715	16,243	32,958	50.7%
岡山	37,350	46,356	83,706	44.6%
広島	44,709	70,053	114,762	39.0%
山口	27,580	36,043	63,623	43.3%
中国計	138,657	181,835	320,492	43.3%
福岡	68,096	125,022	193,118	35.3%
佐賀	15,429	16,627	32,056	48.1%
長崎	23,023	21,782	44,805	51.4%
熊本	32,077	39,063	71,140	45.1%
大分	22,300	25,635	47,935	46.5%
宮崎	17,504	22,894	40,398	43.3%
鹿児島	26,305	31,340	57,645	45.6%
沖縄	21,255	23,949	45,204	47.0%
九州計	225,989	306,312	532,301	42.5%
全国計	1,625,481	2,903,281	4,528,762	35.9%

(資料)軽四輪:全軽自協、登録車:自検協データに基づくスズキ調べ。

## 軽四輪保有台数・世帯当たり普及台数・運転免許保有者数

[表3] 都道府県別 軽四輪保有台数と世帯当たり普及台数

都道府県	軽四輪保有台数	世帯数	100世帯当たり台数	順位(前年順位)
北海道	1,202,549	2,809,828	42.8	40(40)
青森	458,640	593,591	77.3	28(28)
秋田	369,607	424,568	87.1	13(13)
岩手	459,204	534,717	85.9	16(15)
山形	411,027	422,118	97.4	5(5)
宮城	638,954	1,044,637	61.2	36(36)
福島	664,311	798,738	83.2	20(20)
茨城	968,946	1,314,563	73.7	31(31)
栃木	632,741	868,242	72.9	34(33)
群馬	716,981	881,107	81.4	23(22)
埼玉	1,419,438	3,511,768	40.4	43(43)
千葉	1,230,984	3,061,704	40.2	44(44)
東京	862,107	7,563,383	11.4	47(47)
神奈川	1,041,864	4,557,670	22.9	46(46)
山梨	342,752	374,238	91.6	7(7)
新潟	837,922	917,654	91.3	8(8)
静岡	1,204,590	1,644,355	73.3	32(32)
愛知	1,709,105	3,461,470	49.4	39(39)
岐阜	684,190	853,904	80.1	25(25)
三重	663,176	817,486	81.1	24(24)
長野	902,171	897,360	100.5	1(1)
富山	375,313	433,664	86.5	14(14)
石川	365,222	500,194	73.0	33(34)
福井	289,680	303,705	95.4	6(6)
滋賀	472,723	617,522	76.6	29(29)
京都	517,657	1,255,136	41.2	42(42)
大阪	1,191,374	4,512,354	26.4	45(45)
兵庫	1,104,200	2,615,161	42.2	41(41)
奈良	355,489	610,533	58.2	37(37)
和歌山	392,623	443,513	88.5	9(9)
香川	380,018	450,133	84.4	18(18)
徳島	299,797	338,837	88.5	10(10)
愛媛	519,740	657,416	79.1	27(27)
高知	300,191	349,119	86.0	15(16)
鳥取	241,112	241,006	100.0	2(2)
島根	290,051	293,776	98.7	3(4)
岡山	728,486	870,444	83.7	19(19)
広島	832,583	1,340,297	62.1	35(35)
山口	492,253	658,901	74.7	30(30)
福岡	1,369,104	2,544,108	53.8	38(38)
佐賀	340,050	346,110	98.2	4(3)
長崎	505,349	634,183	79.7	26(26)
熊本	667,297	810,872	82.3	21(21)
大分	447,103	548,601	81.5	22(23)
宮崎	468,584	533,052	87.9	11(11)
鹿児島	691,878	813,110	85.1	17(17)
沖縄	616,281	704,293	87.5	12(12)
全国計	31,675,417	60,779,141	52.1	-

(資料)保有台数は2024年3月末現在(スズキ調べ)。世帯数は2024年1月1日現在の総務省調べ。

[表4] 都道府県別 運転免許保有者数(2023年12月末現在)

都道府県	男性	女性	合計	男女比率	
				男性	女性



## フロンテ800、カルタス、エリオ、SX4、スプラッシュ、キザシ、イグニス、バレーノ、クロスビー

1965年-12月	● フロンテ800 発売		
1983年-10月	● カルタス 発売		
1984年- 5月	● カルタス ターボ車 AT車 追加		
1986年- 6月	● マイナーチェンジ 1300ccクラス初のツインカム車 追加		
1988年- 9月	● カルタス フルモデルチェンジ		
1989年- 6月	● カルタス・セダン「エスティーム」発売		
1992年- 2月	● カルタス・コンバーチブル 発売		
1995年- 1月	● カルタス・クレセント 発売		
1996年- 2月	● カルタス・クレセント ワゴン 発売		
1998年- 5月	● カルタスのマイナーチェンジ車 発売		
2001年- 1月	● エリオ 発売		
11月	● エリオセダン 発売		
2006年- 7月	● SX4 発売		
2007年- 7月	● SX4セダン 発売		
2008年-10月	● スプラッシュ 発売		
2009年-10月	● キザシ 発売		
2015年- 2月	● SX4 S-CROSS 発売		
2016年- 2月	● イグニス 発売		
3月	● バレーノ 発売		
2017年-12月	● クロスビー 発売		

## スイフト・シボレークルーズ

2000年- 2月	● スイフト 発売		
2001年-11月	● GMとの共同開発車 シボレー「クルーズ」発売		
2003年- 6月	● スイフトスポーツ 発売		
2004年-11月	● スイフト フルモデルチェンジ		
2005年- 9月	● スイフトスポーツ フルモデルチェンジ		
11月・12月	● スイフトが2006年次 RJCカー オブ ザ イヤー(11月)、第26回2005 - 2006日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞『Most Fun』(12月)を受賞 🏆		
2010年- 9月	● スイフト フルモデルチェンジ		
11月	● スイフトが2011年次 RJCカー オブ ザ イヤーを受賞 🏆		
2011年- 1月	● スイフトが世界累計販売台数200万台を達成		
12月	● スイフトスポーツ フルモデルチェンジ		
2014年- 8月	● スイフトが世界累計販売台数400万台を達成		
2017年- 1月	● スイフト フルモデルチェンジ		
7月	● ハイブリッドを搭載したスイフト 発売		
9月	● スイフトスポーツ フルモデルチェンジ		
11月	● スイフトが2018年次 RJCカー オブ ザ イヤーを受賞 🏆		
2020年- 5月	● スイフト・スイフトスポーツの安全装備を充実して発売		
2023年-12月	● スイフト フルモデルチェンジ		

## ジムニー・エスクード・X90

1977年-10月	● ジムニー8 発売		
1982年- 8月	● ジムニー1000 シリーズ 発売		
1984年-11月	● ジムニー1300 シリーズ 発売		
1988年- 5月	● エスクード 発売		
1990年- 9月・10月	● エスクード ノマド(9月)・レジントップ(10月) 発売		
1993年- 5月	● ジムニー1300 シェラ 発売		
1995年-10月	● X-90 発売		
1997年-11月	● エスクード フルモデルチェンジ		
1998年- 1月	● ジムニーワイド 発売		
2000年-12月	● エスクードシリーズを一部改良、グランドエスクードを発売		
2002年- 1月	● ジムニーシェラ 発売		
2005年- 5月	● エスクード フルモデルチェンジ		
2015年-10月	● エスクード(1600cc) 発売		
2017年- 7月	● エスクード1.4ターボ 発売		
2018年- 7月	● ジムニーシェラ フルモデルチェンジ		
10月	● ジムニー、ジムニーシェラが「2018年度グッドデザイン金賞」を受賞 🏆		
2022年- 4月	● エスクードにハイブリッドシステムを搭載して発売		

## ワゴンRワイド/+ (プラス)/ソリオ、エブリイ+ (プラス)/ランディ、ソリオ、シボレーMW、ランディ

1997年- 2月	● ワゴンRワイド(1000cc) 発売		
1999年- 5月	● ワゴンR+ (プラス)(1000cc) 発売		
6月	● エブリイ+ (プラス) 発売		
2000年-12月	● ワゴンRソリオ(1000cc・1300cc) 発売		
2001年- 5月	● エブリイ ランディ 発売		
2005年- 8月	● ソリオを一部改良し、発売		
2006年- 1月	● コンパクトワゴン「シボレー MW」発売		
2007年- 1月	● ランディ 発売		
2010年-12月	● ランディ フルモデルチェンジ		
2011年- 1月	● ソリオ フルモデルチェンジ		
2012年- 6月	● ソリオにソリオ バンディットを設定して発売		
2015年- 8月	● ソリオ、ソリオ バンディット フルモデルチェンジ		
2016年-12月	● ランディ フルモデルチェンジ		
2020年-12月	● ソリオ、ソリオ バンディット フルモデルチェンジ		
2022年- 8月	● ランディ フルモデルチェンジ		
12月	● ハイブリッドを搭載したソリオ、ソリオ バンディットを発売		

1958

2014

1991

2014

2003

